

～ 3 年生 ～

科目をクリックすると
シラバスが表示されます

【共通科目】

[歴史総合](#)
[地学基礎](#)
[体育](#)
[家庭総合](#)

[総合実践](#)
[キャリアデザイン](#)

【選択科目】

≪ 3 α ≫

[論理国語](#)
[数学Ⅱ](#)
[英語コミュニケーションⅡ](#)

≪ 3 β ≫

[現代社会](#)
[科学と人間生活](#)
[選択体育](#)
[服飾手芸](#)

≪ 3 γ ≫

[文学研究](#)
[社会研究](#)
[ためになる数楽](#)
[エコサイエンス](#)
[野活とレクリエーション](#)
[異文化理解](#)
[保育基礎](#)
[日本語Ⅲ](#)

≪ 3 A ≫

[商品開発と流通](#)
[ビジネスマネジメント](#)
[グローバル経済](#)
[財務会計Ⅱ](#)
[ネットワーク活用](#)
[ネットワーク管理](#)

≪ 3 B ≫

[マーケティング](#)
[観光ビジネス](#)
[ビジネス法規](#)
[原価計算](#)
[管理会計](#)
[プログラミング](#)
[システムデザイン](#)

[課題研究](#)

教科	地理歴史		科目	歴史総合	単位数	2
教科書（出版社）	現代の歴史総合　みる・読みとく・考える　（山川出版社）					
副教材（出版社）	現代の歴史総合　みる・読みとく・考える　ノート改訂版（山川出版社）					
授業の概要	近現代の歴史の変化を政治、経済、社会、文化、宗教、生活、地理などの観点から多面的・多角的に考察していく。					
授業の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標		
	1学期	0　歴史の扉 (1) 歴史と私たち (2) 歴史の特質と資料 1　近代化と私たち (1) 結びつく世界と日本の開国 (2) 国民国家と明治維新		・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義などを考察し、表現する。 ・市民革命や明治維新を基に、国民国家の形成と列強の帝国主義政策によるアジア諸国の変容を理解する。 ・18世紀のアジア諸国の経済、産業革命、アジアの開国、開港、国民国家の形成、列強の帝国主義政策に関する事象について、他の地域どうしを比較したり、関連付けるなどして、その特徴や諸国間の関係性を考察し表現する。		
		2学期	2　国際秩序の変化や大衆化と私たち (1) 総力戦と社会運動 (2) 経済危機と第二次世界大戦		・WW1前後の社会の変化や、WW2の展開、戦後改革と憲法制定などに着目して、日本と他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けることで、WW1後の社会の変容と社会運動との関連を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・WW1の展開、日本やアジアの経済成長、ソ連の成立とアメリカ合衆国の台頭などを基に、総力戦とWW1後の国際協調体制を理解する。 ・世界恐慌、WW2の展開、戦後改革と憲法制定などを基に、WW2後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	
	3学期		3　グローバル化と私たち (1) 冷戦と世界経済 (2) 世界秩序の変容		・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散と影響に着目し、日本と他の国や地域の動向を比較するなどして、冷戦後の国際制度の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・アジアの経済発展、経済自由化と技術革新の影響、民主化の進展、地域紛争の拡大と変容を基に、冷戦後の国際政治の変容と課題を理解する。	
学習の評価						
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	近現代の歴史の変化に関わる事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解し、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。		近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義を時期や年代、推移、比較、相互関連や現在とのつながりに着目し、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、それを効果的に説明したり、議論している。		近現代の歴史の変化に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている態度や日本国民としての自覚、わが国の歴史に対する愛情、他国を尊重することの大切さについての自覚を深めている。	
評価方法	定期考査 ワークシート		定期考査 ワークシート		ワークシート 学期ごとの振り返りシート	



教科	理科		科目	地学基礎	単位数	2
教科書（出版社）	高等学校 地学基礎 （第一学習社）					
副教材（出版社）	新課程版 ネオパルノート 地学基礎 （第一学習社）					
授業の概要	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究していく。					
授業の目標	地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究しようとする態度を養う。					
年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標		
	1学期	第1章 地球のすがた 第1節 地球の概観 第2節 プレートの運動 第2章 地球の活動 第1節 地震		・地球内部の層構造と、表層部のかたさによる区分、マントル内の動きについて理解する。 ・世界のプレートの分布を学び、プレートの3つの境界と、それぞれの境界に見られる地形の特徴を学習する。 ・造山帯や大陸地殻の形成といった地殻変動とプレートの運動との関係について学習する。 ・地震の発生と分布の特徴について学習する。 ・地震波の特徴と震源の決定のしかたを理解する。 ・日本付近の地震の分布と種類について学習する。 ・日本付近の地震について、プレートの運動と関連付けて、発生のしくみや特徴を学習する。		
	2学期	第2章 地球の活動 第2節 火山活動 第3章 大気と海洋 第1節 地球のエネルギー収支 第2節 大気と海水の運動 第4章 宇宙と地球 第1節 宇宙と太陽の誕生 第2節 太陽系と地球の誕生 第5章 生物の変遷と地球環境 第1節 地層と化石 第2節 地球と生物の変遷		・世界の火山分布と日本の火山分布について学習する。 ・火山が形成されるしくみについて、プレートと関連付けて理解する。 ・火山の形についてマグマの性質と関係づけて考える。 ・地球の大気と海洋の働きを理解する。 ・宇宙の探究の歴史について学習する。 ・宇宙の始まり、銀河系の構造について学習する。 ・太陽の誕生過程と活動、それが地球上に及ぼす影響について学習する。 ・太陽系の構造と誕生過程、地球型惑星と木星型惑星の違いや小天体の特徴を理解する。 ・地球に生命が存在する理由について学習する。 ・化石のでき方、化石からわかることについて学習する。 ・先カンブリア時代から新生代第四紀までの地球と生物の変遷について学習する。		
	3学期	第6章 地球の環境 第1節 地球環境の科学 第2節 日本の自然環境		・気候変動や地球温暖化、オゾン層の変化など地球の環境について理解する。 ・日本の自然災害とその対策について考える。		
学習の評価						
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 地学的な事物・現象を科学的に探究する方法を身に付けている。		地学的な事物・現象の中に問題を見だし、観察・実験などを通して、事象を分析・考察することで科学的に判断したことを、言語活動を通じて表現しようとしている。		地学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けようとしている。	
評価方法	・定期考査 ・ワークシート		・定期考査 ・ワークシート		・課題 ・授業ノート ・ワークシート ・観察	



教科	保健体育	科目	体育	単位数	3
教科書（出版社）	現代高等保健体育（改訂版）（大修館）				
副教材（出版社）	現代高等保健体育ノート（改訂版） ステップアップ高校スポーツ 2024（大修館）				
授業の概要	各学期に種目を選択し実技を行う。授業展開としては集合・整列・挨拶、準備運動、補強運動、主運動、整理運動、集合・整列・挨拶という流れとなる。体育理論も行う。				
授業の目標	主体的に運動に親しみ、仲間と協力して取り組むことにより、基礎体力の向上、協調性、ルールを遵守することの大切さを身に付ける。				

	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
年間学習計画	1学期	○集団行動 ○体づくり運動 ○ラジオ体操 ○選択種目Ⅰ ・陸上競技 ・器械運動 ・ダンス から1種目を選択 ○体育理論 3 単元 豊かなスポーツライフの設計 1 生涯スポーツの見方・考え方 2 ライフスタイルに応じたスポーツ	・素早く正確に指示通りに行動することができる。 ・自分や仲間の体と心の変化に気付くことができる。 ・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。
	2学期	○選択種目Ⅱ・Ⅲ ・柔道 ・ソフトボール ・卓球 ・ハンドボール ・硬式テニス ・バレーボール ・バドミントン から前・後半各1種目の計2種目を選択 ○体育理論 3 日本のスポーツ振興 4 スポーツと環境	・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。 ・各ライフステージに体格や体力の変化に応じて、スポーツの行い方や楽しみ方があることを理解する。 ・日本のスポーツ振興施策について理解する。 ・スポーツと環境保護の関係性について理解する。
	3学期	○選択種目Ⅳ ・卓球 ・サッカー ・バスケットボール から1種目を選択	・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。

学習の評価			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	・運動の特性や技能の要点を知っている。 ・ルールを理解し、審判や係の仕事を行うことができる。 ・運動の特性に応じた技能を身に付けることができる。	・技能の要点を意識した練習ができる。 ・課題解決に向けて練習計画を立てることができる。	・運動の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・練習場や用具などの安全を確かめようとしている。
評価方法	・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト	・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト	・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト



教科	家庭科（３年）		科目	家庭総合	単位数	2
教科書（出版社）	未来へつなぐ 家庭総合 3 6 5 （教育図書）					
副教材（出版社）	L I F E おとなガイド デジタル+（教育図書） 学習ノート（教育図書）					
授業の概要	一人の生活者として自立していくために知識と技術の習得 （食生活 住生活 保育）					
授業の目標	食生活、住生活、保育などに関する知識と技術を体験的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。					
年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）			学習目標	
	1 学 期	B 編第 1 章 食生活と健康 ③安全に食べよう ④健康に食べよう ⑤おいしく食べよう ⑥これからも食事を楽しむために 基本実習 日常食 （西洋料理・日本料理・中国料理） 実技テスト（きゅうりの半月切り） 単元：ホームプロジェクト作成			・食品衛生（食品の選択・食中毒・食品添加物）について学び、安全な食生活の知識を身に付ける。 ・食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を理解し、調理に関する基本的な知識を身に付ける。 ・食事マナーを知り、楽しく食事をできるようにする。 ・調理に関する基礎的な技術の習得をする。	
	2 学 期	単元：ホームプロジェクト発表 B 編第 1 章 食生活と健康 ①なぜごはんを食べるの？ ②私たちは何を食べているの？ 基本実習 日常食 （西洋料理・日本料理・中国料理） 実技テスト（うさぎりんご） A 編 第 3 章 子どもの生活と保育 ①子どもはどう生まれ育つ？ ②子どもとどうかかわろう？ ③これからの子育てとは？ 折り紙実習			・栄養素の種類や働きを理解し献立作成につなげられるようにする。 ・食事調査をして、各自の食生活の問題点について考え、問題解決をする。 ・食生活の現状や課題について考える。 ・調理に関する基礎的な技術の習得をする。 ・子どもの心身の発達と特徴、食生活・衣生活や遊びについて学び、理解を深める。	
	3 学 期	B 編第 3 章 住生活と環境 ①どのような家に住みたい？ ②安全に住もう ③快適に住もう ④住まいの課題と未来への暮らし			・住生活の基礎的な知識を習得し快適で安全な住まいを考える力を身に付ける。	
学習の評価						
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
規 準	食生活、住生活、保育に関して、生活を健康で安全に営む基礎的な知識を習得し、家庭や社会の一員としての望ましい心構えについて理解することができる。生活に関する課題を解決するための必要な基礎的技術を身に付け適切に活用することができる。		食生活・住生活・保育の基礎的・基本的な知識と技術を基に、課題を見つけ、課題解決のため思考を深め、工夫したり創造したりし、自分の考えをまとめ判断できる能力を身に付けている。課題解決の学習活動で導き出した考えを的確に表現することができる。		食生活、住生活、保育に関心をもち、家庭や地域への適切な対応を目指して主体的・意欲的に取り組み、実践的な態度を身に付けようとしている。	
評価 方法	定期考査 学習ノート 実技テスト		定期考査 学習ノート		学習態度 学習ノート 課題の提出状況	



教科	国語		科目	論理国語	単位数	4
教科書（出版社）		論理国語（大修館書店）				
副教材（出版社）		論読現代文2（浜島書店）、プライム常用国語（第一学習社）				
授業の概要		近代以降の様々な文章を通して、思考力・判断力・表現力を養い、ものの見方、考え方を順序だてて深めていく力を高める。				
授業の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。				
年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標		
	1学期	評論 「ミロのヴィーナス」 「家族化するペット」 「自己をモデル化する知能」 「方言コスプレ」現象 表現 具体的／抽象的に書く 立場を明確にして書く 情報を集めて分類する		・文章をふまえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。 ・人間、社会、自然に関する文章を手掛かりに、多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深める態度を養う。 ・情報を重要度や抽象度などに分けて整理する方法への理解を深める。		
	2学期	評論 「スキーマと記憶」 「分かち合う社会」 「「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ」 「ネットワーク上のコミュニケーション」 「人を指す言葉-自称詞・対称詞・他称詞-」 表現 意見を交流する 対比して論じる アンケート調査をもとにして書く		・内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが要求を把握する。 ・人間、社会、自然に関する文章を手掛かりに、多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深める態度を養う。 ・立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の工夫を身に付けて文章を書く。		
	3学期	評論 「多数決を疑う」 表現 自由に考えを書く		・文章をふまえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉える。 ・複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連付けて自分の考えを広めたり深めたりする態度を養う。		
学習の評価						
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。		「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようとしたり、深めようとしたりしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。	
評価方法	・観察・定期考査 ・小テスト		・観察・ノート・ワークシート ・定期考査・課題・発表		・観察・ノート・ワークシート ・課題・発表	



教科	数学		科目	数学Ⅱ（3年）	単位数	4
教科書（出版社）		数学Ⅱ 新編（数研出版）				
副教材（出版社）		新課程 3TRIAL 数学Ⅱ（数研出版）				
授業の概要 及び 授業の目標		「数学Ⅰ」やこれまでに学習した内容を発展させ、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分・積分法について基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標		
	1学期	第4章 三角関数 第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線		・三角関数や加法定理について理解し、その理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用することができる。 ・多項式の乗法・除法および分数式の四則計算ができる。 ・数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解いたり、因数定理の理解を深め、高次方程式を解いたりすることができる。 ・座標や式を用いて直線の基本的な性質や関係を数学的に考察し処理することができる。		
	2学期	第2節 円 第3節 軌跡と領域 第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数		・座標や式を用いて円の基本的な性質や関係を理解したり、軌跡や領域の有用性を認識したりすることができる。 ・指数を自然数から、整数や有理数に拡張する過程に関心をもち、指数を具体的な事象に活用できる。 ・常用対数を活用して、桁数などを求めることができる。 ・微分係数と導関数の関係を理解し、接線の方程式を求めことができる。		
	3学期	第2節 関数の値の変化 第3章 積分法		・具体的な事象の考察を通して微分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることができる。 ・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用することができる。		
学習の評価						
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	・式と計算、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分法と積分法についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。		・事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、適切な手法を選択して問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。		・数学のよさを認識し、問題解決に数学を活用しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察したり、評価・改善したりしようとしている。	
評価方法	・定期考査 ・小テスト ・ワークシート ・活動観察 ・課題プリント		・定期考査 ・ワークシート ・活動観察 ・授業プリント		・活動観察 ・課題プリント ・レポート課題 ・振り返りシート	



教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4
教科書（出版社）	VISTA English Communication Ⅱ（三省堂）				
副教材（出版社）	VISTA WORK BOOK（三省堂）、Word-Meister 1700、Training Note③（第一学習社） L+istening Pilot Level1 新訂版（東京書籍）				
授業の概要	題材となる英文を読みながら、その内容を理解するとともに、主な表現に焦点をあてて英語のコミュニケーション場面での表現を学習する。				
授業の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり伝えたりする基礎的な能力を養う。				
年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標	
	1学期	Lesson 1 World Dance Performances		・各地の伝統舞踊を取り上げ、その由来やパフォーマンスに込められた思いを考えることができる。	
		Lesson 2 A Piece of Cake		・英語と日本語の慣用句について、意味は同じでも、使われる表現は言語によって異なることを知る。	
		Lesson3 Quokka		・オーストラリアに棲息するクオッカを通して、生き物と自然環境について考えることができる。	
	2学期	Lesson 4 Designing Stamps		・玉木氏の職業への意識と切手デザインを通じた文化の紹介について考えることができる。	
Lesson 5 Mont-Saint-Michel		・モン・サン・ミシエルの景観を守るための取り組みを考えることができる。			
Lesson 6 Smart Agriculture		・スマート農業に用いられる先端技術を通じて、未来の農業について考えることができる。			
Lesson 7 A Martial Art on Tatami		・競技かるたの魅力をを知ることを通して、日本文化への理解を深めることができる。			
3学期	Lesson 8 Biologging		・バイオロギングの研究を通して、動物や自然環境について考えることができる。		
	Enjoy Reading 1 The Open Window		・イギリスの作家サキによる物語を読み、ユーモアとウィットを感じ取ることができる。		
学習の評価					
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価基準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	活動観察 ワークシート・振り返りシート 定期考査		活動観察 スピーチ・エッセイ 定期考査		活動観察 プレゼンテーション



教科	公民		科目	現代社会	単位数	2
主たる教材（出版社）		はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！レポート・論文のまとめ方（スバル舎）				
授業の概要		現代社会における諸問題について知識を深め、研究する。				
授業の目標		現代社会における諸問題について、問題意識をもって研究した結果を他者に伝わりやすい形で発表できる。				
年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）			学習目標	
	1学期	1 社会問題を分析するための技術 (1) 効果的な検索方法 (2) 情報の信頼度 (3) 情報の分析方法 (4) レポートの書式 (5) レポート作成			・インターネットを活用し、効果的に情報を得る方法、および調べるときに注意すべきことについて理解する。 ・レポート文章を作成するのに必要な技術を習得する。 ・インターネットから得た情報の信頼性や筆者のバイアスなどを批判的に検討できる。 ・情報の信頼性や筆者のバイアスについて具体例を見つけるなど、意欲的に学習に取り組んでいる。	
	2学期	2 現代社会にかかわる諸問題の学習 (1) 生徒の興味関心に基づいた社会問題の学習 (2) 問いの見つけ方 (3) 研究課題の設定の仕方 (4) 研究課題の設定			・現代社会における諸問題の原因や結果、その複雑性などを調査しながら明らかにすることができる。 ・現代社会における諸問題について研究した結果を、歴史、文化、政治、経済、宗教などの多様な観点から多面的・多角的に考察したり、議論できる。 ・現代社会における諸問題について、意欲的に研究している。	
	3学期	3 研究発表作成 (1) 効果的なプレゼンテーション資料の作成 (2) 調査・途中経過報告など (3) 研究発表会			・これまでの学習内容を活用し、興味関心に基づいて現代社会における諸問題にかかわる研究を行う。 ・自身の研究内容を他者にわかりやすく、興味関心を起こせるようなプレゼンテーションができる。 ・他者の研究発表を意欲をもって聞き、自身の知識理解を深めようとしている。	
学習の評価						
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価基準	現代社会にかかわる諸問題について知識を広め、それぞれの問題が持つ原因や複雑性などを理解し、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。			現代社会にかかわる諸問題について、歴史、文化、政治、経済、宗教などの多様な観点から多面的・多角的に考察したり、議論したりする力を身に付けている。		現代社会の発展に寄与するために自ら設定した課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、現代社会で共有される価値観と責任感を学び、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚している。
評価方法	レポート 各種成果物 コメントシート 授業観察			各種成果物 プレゼンテーション コメントシート 授業観察		コメントシート 授業観察 研究発表会レポート



教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2
教科書（出版社）	科学と人間生活（数研出版）				
副教材（出版社）	科学と人間生活サポートノート準拠（数研出版）				
授業の概要	科学を学びながら、古くから人間がどのように科学と関わってきたのかを理解する。				
授業の目標	学科学技術の発展に伴って、今日の人間生活がどのように変化してきたかについて理解し、科学の重要性を考える。				
年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標	
	1学期	第1編 物質の科学 第1章 材料とその再利用		・現代の生活では多くの金属が私たちの生活を支えていることを理解する。 ・金属に共通する性質を理解する。 ・身のまわりに多く使われているプラスチックの種類と用途について理解する。 ・近年開発が進められている優れた機能をもつプラスチックについて理解する。	
		第2編 物質の科学 第2章 微生物とその利用		・私たちの身の周りには無数の微生物が存在することを理解する。 ・乳酸発酵とアルコール発酵が起こる際の反応を理解するとともに、それぞれを利用してつくられる発酵食品について学習する。	
	2学期	第2編 物質の科学 第2章 微生物とその利用		・ワクチンや抗生物質などがどのような物質であるのかを理解するとともに、それらの医薬品の生産に微生物が利用されていることを理解する。 ・微生物による分解によって自然浄化が行われていることや、微生物の分解能力を利用した浄化が試されていることを学習する。	
第3編 光や熱の科学 第1章 光の性質やその利用		・白色光はあらゆる色の光が混ざったものであることを理解する。 ・人間の目で感知することができる可視光線だけでなく、人間の目には見えない光（紫外線や赤外線）があることについても理解する。 ・光の色と波長の関係を理解する。 ・光は電磁波の一種であることを理解する。電磁波の分類について理解する。			
3学期	第4編 宇宙や地球の科学 第1章 太陽と地球		・日本列島周辺の高気圧分布や季節風の季節ごとの変化と四季の気候の特徴を理解する。 ・温室効果のしくみについて理解する。 ・地球に届く太陽放射エネルギーの量や特徴について理解する。 ・季節が変化する理由を天体の運動という観点から理解する。 ・大気の地球規模での循環は、地球を出入りする太陽放射エネルギーによって引き起こされることを理解する。		
	学習の評価				
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
評価基準	科学の幅広い分野について、自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。		科学の基礎的な知識に基づき、科学が人間生活とどのように結びついているのかを考え、人間生活がどのように発展してきたのかを分析しようとしている。		自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的な目線で分析することができる。また科学の発展に対して考えようとしている。
評価方法	・定期考査 ・ワークシート		・定期考査 ・ワークシート		・課題 ・授業ノート ・ワークシート ・観察



教科	保健体育		科目	選択体育	単位数	2
教科書（出版社）		なし				
副教材（出版社）		なし				
授業の概要		球技を中心に様々な種目を実施する。また、練習や試合を企画や、テーピングなどのスポーツに関わる知識や技術などについても同時に実施をする。				
授業の目標		球技を中心に各種目の専門的な技術を習得し、授業内での種目における試合の企画、運営を行い主体的な活動を行えることを身に付ける。				
年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標		
	1 学 期	○体づくり運動 ○陸上競技 ・投てき種目 ・トラック競技(短距離走等) ○テーピング実習		・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。 ・各種目の専門的な知識や技術の積極的に習得する。		
	2 学 期	○選択種目 ・バスケットボール ・バレーボール ・バドミントン ・ハンドボール ・卓球 ・ソフトボール 等		・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。 ・各種目の専門的な知識や技術の積極的に習得する。		
	3 学 期	○体づくり運動 ○陸上競技 ・長距離走 ○ニュースポーツ ・モルック ・ボッチャ ・インディアカ 等		・各種目特性を理解して、自ら積極的に取り組むことができる。また、意欲的に技術や戦術の向上を目指して運動に親しむことができる。 ・ルールを理解して、公正な態度で授業に取り組むことができる。 ・仲間と協力して準備や片付けを行うことができる。 ・安全に配慮した行動がとれるようになる。 ・各種目の専門的な知識や技術の積極的に習得する。		
学習の評価						
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価 規 準	・運動の特性や技能の要点を知っている。 ・ルールを理解し、審判や係の仕事を行うことができる。 ・運動の特性に応じた技能を身に付けることができる。		・技能の要点を意識した練習ができる。 ・課題解決に向けて練習計画を立てることができる。		・運動の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・練習場や用具などの安全を確かめようとしている。	
評価 方法	・観察 ・実技 ・ワークシート ・ペーパーテスト		・観察 ・実技 ・ワークシート ・ペーパーテスト		・観察 ・実技 ・ワークシート ・ペーパーテスト	



教科		家庭科（３年）		科目	服飾手芸	単位数	2
教科書（出版社）		一生使えるおさいほうの基本（主婦の友社）					
授業の概要		手芸に関する基礎的な知識を学習する。手縫い・ミシン縫い・編み物・刺しゅうなどの技法を身につけ、作品制作を行い、生活に取り入れていく素養を身に付ける。					
授業の目標		手芸の種類、特徴および変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得し、手芸品を創造的に制作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。					
年間 学習 計画	学期	学習内容（単元・項目）			学習目標		
	1 学期	1　さいほうの基礎 材料と用具 布について 布にあった糸と針の選び方 2　手芸材料の理解 3　手芸の変遷の理解 作品製作 ①ピンクッション製作 ②ポケットティッシュカバー製作 ③コースター製作 ④基礎縫い（返し縫い・本返し縫い・千鳥掛け） 実技テスト（基礎縫い）			・手芸の材料、用具、種類と特徴について理解を深める。 ・手芸に関する基礎的な技術の習得をする。 ・手芸技法を活用し、作品を製作する力を身に付ける。 ・手芸の変遷について、理解を深める。		
	2 学期	4　刺しゅうの理解 作品製作 ①基礎刺しゅう（フランス刺しゅう） ②刺しゅう応用作品 実技テスト（基礎刺しゅう） 5　編み物の理解 作品製作 ①基礎編み（かぎ針編み） ②かぎ針編み応用作品			・刺しゅうの種類と特徴について理解する。 ・フランス刺しゅうの基本的な技法を習得する。 ・習得した基本的な技法を活かして、服飾小物を製作する。 ・編み物の種類と特徴について理解する。 ・かぎ針編みの基本的な技法を習得する。 ・習得した基本的な技法を活かして、服飾小物を製作する。		
	3 学期	②かぎ針編み応用作品 実技テスト（基礎編み） 6　染色の理解 ①絞り染め			・習得した基本的な技法を活かして、服飾小物を製作する。 ・染色の種類と特徴について理解する。 ・絞り染めの基本的な技法を習得する。		
学習の評価							
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
規 準	服飾手芸に関しての知識と専門的技法を、身に付けている。		専門的な学習の理解と伝統的な技法について思考を深め、生活に生かせるよう、実習活動を計画し、実践することができる。		服飾手芸に関して、生活に生かせるよう知識と技術を学ぶ意欲と態度を身に付けている。		
評価 方法	定期考査 実技テスト		定期考査 プリント		学習態度 プリント 課題の提出状況		



教科		国語		科目	文学研究	単位数	2
教科書（出版社）		なし					
副教材（出版社）		近現代文学コレクション（第一学習者）					
授業の概要		近現代から現代の小説や詩歌を扱いながら、各作品についての理解や考察を深めたり、自ら創作することを通してことばの豊かさに触れる。					
授業の目標		扱う作品についての理解や考察を深めたり、自ら創作することを通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。					
年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）			学習目標		
	1 学 期	小説 「山月記」 小説 「ひよこの眼」 現代短歌			・ 文学的文章を読んで、独特な表現効果について考える。 作者の生涯や原典との比較を通して、作品への理解を深める。 ・ 語り手の存在を意識しながら作品の構造をとらえ、登場人物の心情について様々な解釈を試みる。 ・ 短歌に興味をもち、作品にうたわれている情景や心情を読み味わうことに加え、自ら創作する楽しさに気付く。		
	2 学 期	小説 「こころ」 現代詩			・ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・ 書き手の意図を捉え、共感したり、疑問に思ったり、思索したりする。 ・ 詩に興味をもち、作品にうたわれている情景や心情を読み味わう。		
	3 学 期	小説 「舞姫」 リレー小説を創作しよう			・ 小説に描かれた様々な愛や葛藤の姿から、登場人物の心の動きについて考える。 ・ 他者を惹き付ける内容や表現を意識しながら、共同で作品を作り、文章を書く楽しさを味わう。		
学習の評価							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に取り組む態度	
評価 規 準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。			深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
評価 方 法	小テスト 課題			小テスト ワークシート・ノート 課題		観察 話し合い ワークシート・ノート	



教科	地理歴史		科目	社会研究	単位数	2
主たる教材（出版社）		きほんを学ぶ世界遺産 100 世界遺産検定 3 級公式テキスト（世界遺産検定事務局）				
授業の概要		世界遺産検定 3 級合格程度の知識を身に付ける。				
授業の目標		世界遺産から文化や歴史についての知見を広げ、世界へ関心を向ける。世界遺産保全への意欲を高め、日本の文化や歴史の価値を再発見する。				
年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）			学習目標	
	1 学期	1 日本の世界遺産 (1) 食物連鎖 (2) 金鉱山 (3) 絹産業 (4) 信仰の山 (5) 古都と激動の歴史 (6) 古墳群 (7) 都市と城郭建築 (8) 伝統的集落 (9) 第二次世界大戦の傷跡			・日本固有の文化や自然を代表とする日本の世界遺産は、世界の遺産ともつながっていることを理解する。 ・日本各地の歴史や文化、地理の知識を基に、異文化理解やグローバルな視点を活用して多面的・多角的に考察し、それを効果的に説明したり、表現している。 ・日本各地の世界遺産の多様性について、持続可能な開発の実現を視野にそこでみられる現象を主体的に追究しようとしている。	
	2 学期	2 アジア各地の世界遺産 (1) 中華文明の形成 (2) 東南・中央アジア世界の形成 (3) 仏教 (4) イスラム教 3 ヨーロッパ各地の世界遺産 (1) 西ヨーロッパ世界の成立 (2) 商業と都市 (3) レコンキスタと十字軍 (4) ルネサンス (5) 海洋都市国家と大航海時代 (6) 東ヨーロッパ世界			・アジア世界の遺産は、広大なアジア地域に花開いた文化や宗教の多様性を今に伝えることを理解する。 ・ヨーロッパ中世ヨーロッパに誕生した都市国家が激動した宗教や文化、政治・経済を象徴していることを理解する。 ・アジアとヨーロッパ各地の歴史や文化、地理の知識を基に、異文化理解やグローバルな視点を活用して多面的・多角的に考察し、それを効果的に説明したり、表現している。 ・アジアとヨーロッパ各地の世界遺産の多様性について、持続可能な開発の実現を視野にそこでみられる現象を主体的に追究しようとしている。	
	3 学期	4 アメリカ大陸各地の世界遺産 (1) アメリカ大陸の文明① (2) アメリカ大陸の文明② (3) アメリカ大陸の文明③ 5 世界の自然遺産 (1) 火山 (2) 氷河とフィヨルド (3) 滝 (4) 海洋と湖			・アメリカ大陸の遺産は高度な文明や精神文化の存在を示していることを理解する。 ・アメリカ大陸各地の歴史や文化、地理の知識を基に、異文化理解やグローバルな視点を活用して多面的・多角的に考察し、それを効果的に説明したり、表現している。 ・自然環境の多様性について、持続可能な開発の実現を視野にそこでみられる現象を主体的に追究しようとしている。	
学習の評価						
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価基準	世界遺産に関する知識を広め、それぞれの遺産が持つ歴史的、文化的、自然的価値を理解し、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。			人類共通の財産・宝物である世界遺産を通して、歴史や文化、地理の知識が身に付き、異文化理解やグローバルな視点を活用して多面的・多角的に考察したり、それを効果的に説明したり、議論したりする力を養うことができる。		持続可能な社会の発展に寄与するために課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、国際社会で共有される価値観と責任感を学び、世界遺産の保全と普及に貢献する態度を深めている。
評価方法	定期考査 ワークシート			定期考査 ワークシート		ワークシート 学期ごとの振り返りシート



教科	数学	科目	ためになる数楽	単位数	2
教科書（出版社）	自作プリント				
副教材（出版社）	自作プリント				
授業の概要	数学的な見方・考え方を学び、ビジネスシーンや身近な例を通して活用したり、それらを議論したり、発表したりする。				
授業の目標	(1) 課題解決のために、どのように問題を定義し、分析、モデル化するかといった、事象を数学化する知識や、それに基づいて実践する力を身に付ける。 (2) 数学のよさや有用性を発見し、それらを探索し考察する力や、現実の事象を数学化したり、他者に数学のよさを正しく伝えたりするなどの表現力を養う。 (3) 積極的に数学を活用しようとする態度や、課題に取り組む中で自身が何をどのように学んだかを評価し、改善しようとする態度を養う。				
年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標	
	1学期	1 オリエンテーション 目標と数学的思考について 2 数学的思考を学ぶ 定義、分解、比較、構造化について 3 数学的思考の実践 分解、比較、構造化練習 4 研究テーマの決定 研究目標と研究計画の立案		・数学的思考のもと、考えるうえで必要な計算をしたり、グラフ、表にしたりして処理できる。 ・数学的思考を、既習内容と照らし合わせたり、未知の事象に当てはめたりすることができる。 ・与えられた課題に対して問題を定義したり、問題を分解して見通しを立てたりすることができる。 ・課題を設定し、問題の定義付けができる。	
	2学期	2 数学的思考を学ぶ モデル化について 3 数学的思考の実践 比較、構造化、モデル化練習 6 研究実践 情報収集と分析、構造化 7 中間発表		・研究に必要な情報を収集し、式やグラフ、表にして分析できる。 ・課題解決のために、数学的思考を順序だてて考え、それをもとに他者に伝えて議論したり、解決方法を判断したりすることができる。 ・発表するためのプレゼンテーションの方法を理解することができる。 ・探究した成果をまとめ、発表する場で他者に正しく伝えることができる。	
	3学期	8 研究実践 新たな情報収集、再分析、再構造化 9 研究発表		・中間成果から研究に必要な情報の取捨選択をしたり、立てた仮説と研究結果を照らし合わせたり、結果を他者に伝えるように組み立てたりすることができる。 ・課題解決のために、数学的思考を順序だてて考え、レポートをとおして、解決方法を判断したり、他者に伝えるようにまとめたりすることができる。 ・最終的に探究した成果をまとめ、発表する場で他者に正しく伝えることができる。	
学習の評価					
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価基準	・定義、分解、比較、構造化、モデル化からなる数学的思考を身に付けている。 ・事象を数学的思考で考えたり、数学的に処理したりする技能やプレゼンテーションの方法について身に付けている。		・課題解決のために数学的思考をもとに考えたり、課題を設定し、結果の予測や情報収集、実験などをして探究し考察したりする力を身に付けている。 ・どのように思考したかを他者と議論して判断する力や、探究してまとめた成果を他者に正しく表現する力を身に付けている。		・積極的に数学的思考を活用して、課題解決に粘り強く取り組もうとしたり、数学の歴史や身近に活用されている場面などを調べたりして、数学の理解を深めようとしている。 ・課題に取り組む中で自身が何をどのように学んだかを評価し、次の学習に改善しようとしている。
評価方法	・小テスト ・研究冊子 ・中間発表 ・発表		・小テスト ・レポート ・中間発表 ・発表		・研究冊子 ・観察 ・振り返りシート ・中間発表 ・発表



教科		理科	科目	エコサイエンス	単位数	2
教科書（出版社）		自作プリント				
副教材（出版社）		なごや環境ハンドブック（「なごや環境大学」実行委員会）				
授業の概要		身近な環境問題とその解決方法を科学的な視点で探り、体験的な学習を通して理解を深める。				
授業の目標		環境問題を自分事として捉え、科学的な知識をもとに、持続可能な社会の実現に必要な行動を考え、実行できる人間の育成を目指す。				
年間学習計画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標		
	1学期	1. ごみ問題 2. 衣服問題		・ 藤前干潟とごみ問題の関係について知る。 ・ 名古屋市のごみ処理について、工場見学等を通して学ぶ。 ・ プラスチックごみの問題について現状を知る。 ・ ごみ問題の解決に向けた企業や個人の取り組みについて調べ、考える。 ・ 衣服産業が環境に与える負荷について理解する。 ・ 綿や藍植物の栽培から紡績、染色、織りの体験を通して、衣服が作られる過程を理解する。 ・ 日本の衣服事情の昔と今について調べる ・ 環境に配慮した衣服との向き合い方を考える。		
	2学期	3. 地球温暖化とエネルギー問題 4. 食糧問題		・ 地球温暖化とエネルギー問題の関係について学ぶ。 ・ 火力や原子力、再生可能エネルギーなど、さまざまなエネルギーを利用した発電方法について学び、そのメリットとデメリットを考える。 ・ 脱炭素社会の実現のために求められる社会の在り方や個人にできることを考える。 ・ 日本及び世界の食糧事情について学ぶ。 ・ 食糧生産の現場で起きている環境問題について知る。 ・ 食糧問題に対して個人にできることを考える。		
	3学期	5. 振り返りとまとめ		・ これまでの学習を振り返り、知識をまとめる。 ・ 持続可能な社会の実現に向けて、学んだ知識をもとに自分のくらし方を見直し、具体的な改善方法を考える。 ・ 学習の成果を発表する。		
	学習の評価					
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価規準	自分達の住んでいる地域及び地球全体の自然環境について、その実態と問題を把握し、正しい知識を身に付けている。		環境問題とその解決方法を科学的な視点で探求し、持続可能な社会をつくるために、自分にできることを考え、表現しようとしている。		自然環境の変化や環境問題を自分事として捉え、主体的かつ協働的な態度で持続可能な社会づくりに向け行動しようとしている。	
評価方法	・ ワークシート ・ レポート ・ 発表		・ ワークシート ・ レポート ・ 発表		・ ワークシート ・ レポート ・ 発表 ・ 観察	



教科	保健体育	科目	野外活動とレクリエーション	単位数	2
教科書（出版社）	なし				
副教材（出版社）	なし				
授業の概要	野外活動は自然体験活動の楽しさや厳しさ、技術等の習得を目指し、自然に対する興味関心をためるような授業を展開する。また、レクリエーションはレクリエーションスポーツの様々な楽しみ方を学んだり、新たなレクリエーションスポーツの考案など、これからのスポーツについて考えていく授業を展開する。				
授業の目標	自然と関わる野外の運動の学習や、ニュースポーツを中心としたレクリエーションを学習し、以下の通り生徒を育成することを目指す。				

年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）	学習目標
	1 学 期	○野外活動実習 ○ニュースポーツ ・モルック ・インディアカ	・運動の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・野外の学習に主体的に取り組み、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高めることができる。
	2 学 期	○調べ学習 ・スポーツの考案 ○ニュースポーツ ・アルティメット ・ティーボール ・キックベースボール ・ソフトバレーボール	・運動の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・野外の学習に主体的に取り組み、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高めることができる。
	3 学 期	○野外活動実習 ○ニュースポーツ ・ゲートボール ・ボッチャ ・キンボール	・運動の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・野外の学習に主体的に取り組み、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高めることができる。

学習の評価			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	・運動の特性や技能の要点を知っている。 ・ルールを理解し、審判や係の仕事を行うことができる。	・課題解決に向けて練習計画を立てることができる。	・運動の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・野外の学習に主体的に取り組み、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高めることができる。
評価 方 法	・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト	・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト	・観察、ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト



教科	外国語（英語）	科目	異文化理解	単位数	2
教科書（出版社）		Watching World (浜島書店)			
副教材（出版社）					
授業の概要		教科書を通し、「読むこと」、「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の4技能、5領域を中心とした基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、プレゼンテーションを通して読んだりして得た情報や考えなどを、論理的に発信できるような思考力・判断力・表現力を身につけられるよう学習を進める。			
授業の目標		英語を通じて他国の文化について学び、自国の文化との違いを考える。また、プレゼンテーションを行い、発信力を育てる。			
年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		学習目標	
	1 学 期	Lesson1 Food Culture in China Lesson2 Multiethnic Singapore Lesson3 Unique Australian English Lesson 4 The Gnages		・中国の食文化、多民族国家であるシンガポール、オーストラリアの特徴的な英語、インドのガンジス川について、英文を聞いたり、読んだりして内容を理解することができる。 ・重要な表現や英文法を解説することができる。	
	2 学 期	Lesson5 Turkish Cuisine Lesson6 Ramadan Lesson7 Kenya, Leading Mobile Money Country Lesson8 Onion Domes of Russian Churshes		・トルコ料理、エジプトでのラマダン、ケニアのモバイルマネー事情、ロシア正教会の建物について書かれた英文を聞いたり、読んだりしてその特徴を理解することができる。 ・本文中の重要な表現や英文法を解説することができる。	
	3 学 期	Lesson9 British Boarding Schools Lesson10 Land of Fire and Ice		・イギリスの全寮制学校、アイスランドの地理について書かれた英文を聞いたり、よんだりしてその特徴を理解することができる。 ・本文中の重要な表現や英文法を解説することができる。	
学習の評価					
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価 方法	活動観察 ワークシート プレゼンテーション 定期考査		活動観察 ワークシート プレゼンテーション 定期考査		活動観察 プレゼンテーション



教科		家庭科（3年）		科目	保育基礎	単位数	2
教科書（出版社）		保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ（教育図書）					
副教材（出版社）		保育基礎 ワークノート（教育図書）					
授業の概要		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
授業の目標		(1)保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
年間 学 習 計 画	学期	学習内容（単元・項目）			学習目標		
	1 学 期	1章 子どもの保育 ・保育の意義 ・保育の環境 (実習) 切り絵作品製作 ・子どもの食事 1 栄養と食生活 外部講師による栄養指導 ・子どもの衣服と寝具 1 子どもの衣服の役割 期末考查			・子どもの発達の共通性・個別性について理解している。 ・安全基地としての親の重要性について理解する。また、家族・きょうだい・友達などの対人関係と社会性の発達について考えることができる。 ・発達の過程で子どもができるようになることを、月齢や年齢に応じて挙げることができる。		
	2 学 期	2章 子どもの発達 ・子どもの発達の特性 ・乳幼児の発育と発達 ・子どもの健康と生活 (作品製作) 壁面構成 4章 子どもの福祉 ・保育にみる児童観 ・児童福祉の理念と法律・制度 期末考查			・季節の工作について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 ・子どもが保護・養育される権利を持ち、尊重されるべき存在であることを理解している。 ・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度の仕組みなどについて理解している。 ・保育施設と行政などが連携した子育て支援について関心を持ち、自分で情報を収集しようとしている。		
	3 学 期	5章 子どもの文化 ・子どもの文化の意義 ・子どもの文化を支える場 ・子どもと遊び 遊びの種類と発達 (実習) 子どものおやつ 学年末考查			・子どもの発達段階に合った、遊びの重要性について理解することができる。 ・子どもの遊びに対する、保育者としての適切なかわり方を理解する。 ・子どもの文化の現状を捉え、今後の課題について考察することができる。		
学習の評価							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価 規 準	保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができる。		子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。	
評価 方法	定期考查 学習ノート 実習作品			定期考查 学習ノート 実習作品		学習態度 学習ノート 課題の提出状況	



日本語Ⅲ



総合実践



キャリアデザイン



3 A

商品開発と流通



3A

ビジネスマネジメント



3 A

グローバル経済



3 A

財務会計Ⅱ



3A

ネットワーク活用



3A

ネットワーク管理



3B

マーケティング



3 B

観光ビジネス



3 B ビジネス法規



3 B 原価計算



3 B 管理会計



3 B

プログラミング



3 B

システムデザイン



課題研究

- ・ パーソナルファイナンス
- ・ 観光マネジメント
- ・ エリアビジネスプロジェクト
- ・ グローバルデザイン
- ・ 上級アカウンティング
- ・ 高度 I T 研究
- ・ ビジネスコミュニケーション
- ・ 中川新聞社
- ・ アプレンティスシップ
- ・ プレゼンテーション
- ・ 商品開発
- ・ 愛知探究プログラムⅢ



パーソナル ファイナンス



観光マネジメント



エリア ビジネスプロジェクト



グローバルデザイン



上級アカウンティング



高度 I T 研究



ビジネス コミュニケーション



中川新聞社



アプレンティスシップ



プレゼンテーション



商品開発



愛知探究プログラム Ⅲ

